

人工授精のとまりをよくする!!

酪農家にとって、乳牛が毎年お産をしてくれることが絶対条件です。餌をたくさん喰べる乳牛が、長い間、空胎でいることは牛乳生産を少なくすることになり、全くの損になります。

乳牛が毎年お産をするためには、常日頃から、乳牛を健康にしておき、発情期を確実につかんで、適期に授精を行なうことなのですが、最近はほとんど人工授精をするようになり、人工授精での『とまり』を良くすることがポイントになって来ました。

アメリカでも人工授精した牛の妊娠率をたかめるために、いろいろ研究をしています。その一つを紹介しましょう。

その方法は簡単で、僅か10秒間の手作業で、何もしなかった場合より6%も授精率(とまり)が良くなったというのです。北海道の経産牛は約30万頭いますから、その6%と言えば約18,000頭多く生れることになり、馬鹿に出来ません。

アメリカの試験場で行った試験というのはつぎのようなことです。

まず、39頭の牛に11日間毎日180mgのプロジェストロン(黄体ホルモンに含まれる物質)をあたえ、その2日目にはエストラジオール(発情ホルモンの一種)を5mgを注射して、39頭を一斉に発情させました。そして、これらの牛を5つのグループに分けて、それぞれつぎのように処置しました。

第1グループ：何もしないで人工授精したもの

第2グループ：子宮頸部を人手で刺戟して

人工授精したもの

第3グループ：子宮頸部の刺戟と10秒間陰核を手でマッサージしたもの

第4グループ：種牛で本交したもの

第5グループ：発情を抑制して種牛で本交したもの

この結果、10秒間のマッサージにより、発情開始から排卵までの時間が短縮されることが判りました。子宮頸部と陰核をマッサージした牛は、他の牛よりも4.7時間も早く排卵し、種牛により本交した場合とほぼ同じであったのです。

このような牛の性器の刺戟は、精子の移動をも助けます。種牛から出た精子が雌牛の卵子に早く到着することが妊娠率を高める第一条件ですから、人工授精の場合でも前述のマッサージで排卵が早くなれば、授精が早く確実になるというものです。

経験ある酪農家の皆さんの中には、すでにこのことを体験している方々もあると聞いていますが、アメリカの試験から研究して見ては如何ですか!!

(アメリカ農業研究誌)

